

大東市におけるバリアフリー調査と連携した データ作成・利活用に関する実証・成果報告



2019年3月8日

1. 大東市の概要



- 大阪府の北東部に位置し、西は大阪市に、東は奈良県生駒市に接している。
- 市内にはJR学研都市線が通り、3駅が存している。
- 大阪市内中心部には、電車で12分程度。京都・奈良・神戸も通勤、通学圏の交通至便なまち。
- 市の東部エリアは生駒山系の豊かな自然があり、ハイカーなどでにぎわう。
- 市内3駅周辺を重点整備地区としたバリアフリー基本構想を平成26年12月に策定



2. 既存のバリアフリー調査の状況(歩行経路)

- 大東市では、バリアフリー基本構想の策定に際し、市内のJR3駅周辺地区を対象に、バリアフリー調査（タウンウォッチング）を実施している。
- 公共施設内のバリア情報を掲載したバリアフリーマップを作成しているが、公共施設どうしを結ぶ経路に関するバリアフリーマップ作成を目的とした調査は実施していない。

タウンウォッチングの方法

- 重点整備地区として定めるJR駅周辺地区のバリアフリー上の課題を抽出するため、各駅に分かれて、タウンウォッチングを実施。
- 障害者（身体、視覚、聴覚、知的、精神）と街中を見て回り、歩行する上で問題となる箇所を抽出。（バリアフリー基本構想策定当時のバリアフリー法を基準に調査）

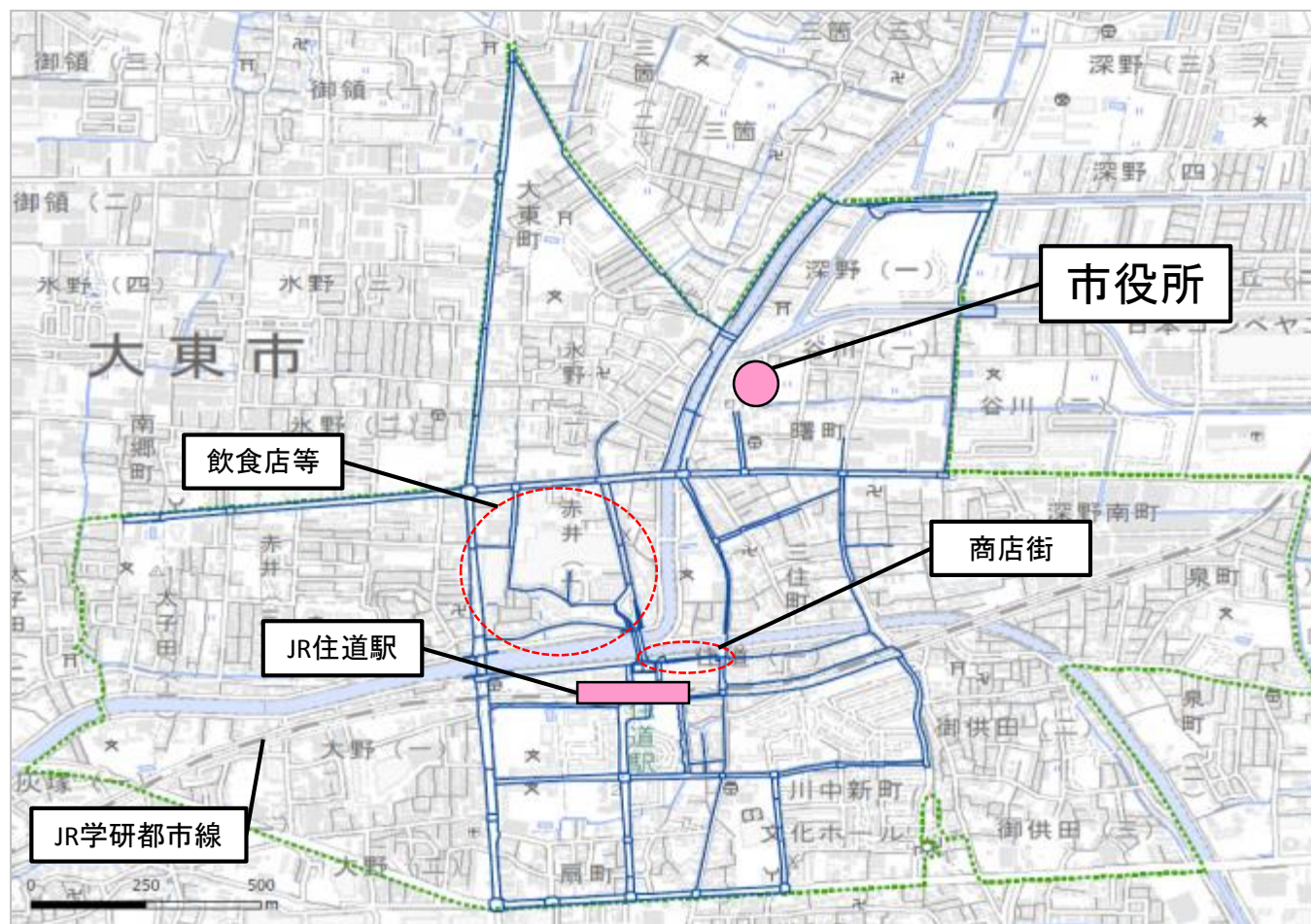
タウンウォッチングの結果の整理内容

- 歩道勾配の問題箇所
 - ・縦断勾配：5%以上の箇所の確認
 - ・横断勾配：2%以上の箇所の確認
- 歩行空間上の障害物等
 - ・電柱、信号柱、標識柱等
 - ・歩行者空間内の段差（2cm以上）
 - ・路面のがたつき
 - ・網目の粗いグレーチング 等
- 歩道形状
 - ・マウントアップ形式
 - ・セミフラット形式
 - ・フルフラット形式
 - ・その他（歩道橋等）

3. 歩行空間ネットワークデータの整備

○歩行空間ネットワークデータ

- ・整備延長：24km
- ・データ整備の路線は、バリアフリー基本構想に定める生活関連経路及び準生活関連経路を基本とし、歩行者の通行量の多い経路を追加。



4. 歩行空間ネットワークデータの多用途利用の検討

- バリアフリーに係る庁内連絡会議において、本事業の取組内容について紹介するとともに、歩行空間ネットワークデータの多用途利用の可能性について意見を収集。
- その結果、歩行空間ネットワークデータの利活用について「防災」「福祉」「教育」分野にて利用可能性について意見を得た。

分野	用途
防災	<ul style="list-style-type: none">・バリアフリーマップに、災害時に避難所となる小中学校等の情報と歩行空間ネットワークデータによる経路のバリア情報を掲載することで、避難の際の通行し易い経路の事前確認に役立てることが可能。 <p>(注意点) バリアフリー経路は、災害時に必ずしも最適な避難経路とはならないため、状況に応じた最適な経路の確認が必要である。</p>
福祉	<ul style="list-style-type: none">・バリアフリーマップに、病院・介護施設と歩行空間ネットワークデータによる経路のバリア情報を掲載することで、障害者等の移動を支援することに有効。
教育	<ul style="list-style-type: none">・小学校の位置情報と歩行空間ネットワークデータのバリア情報を組み合わせることにより、通学路の安全性や経路の再設定等の検討に活用することが可能。

5. 次年度以降の取り組み(隣接自治体と連携したデータ整備)

○現状の課題：

隣接する大東市と四條畷市のバリアフリーマップに掲載する情報が異なることで利用者の混乱を招く可能性があり、統一的な情報を掲載したバリアフリーマップの整備が課題。

○課題の解決策：

両市が四條畷駅周辺のバリアフリーマップを歩行空間NWD整備仕様に基づいたデータ整備を検討し、統一的な基準に基づいたバリアフリー情報の提供を推進。

○今年度の実施内容と次年度以降の取組

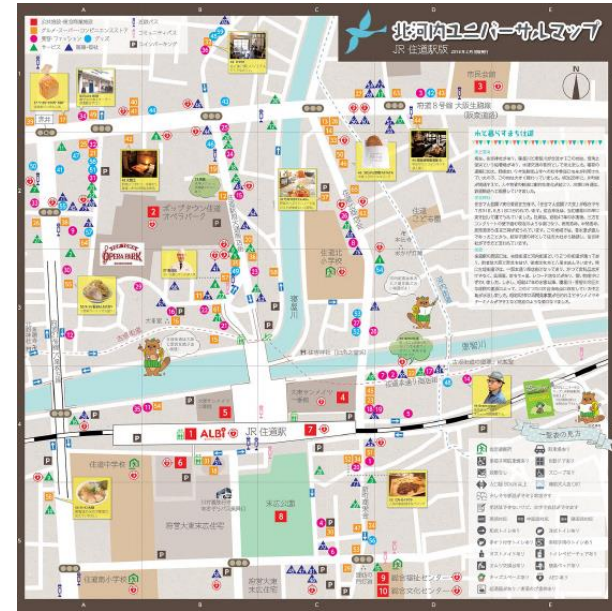
(データ整備)

- ✓ 統一的な情報整備に向けて歩行空間ネットワークデータ整備仕様に従いデータ整備を行うことを検討。両市のバリアフリーマップへ歩行空間ネットワークデータのバリア情報の掲載を検討。
- ✓ 平成30年度は、四條畷駅を中心としたバリアフリーマップを四條畷市にて整備。次年度以降、大東市側の歩行空間NWD整備仕様にて行う調査との連携を検討。

(データメンテナンス)

- ✓ 大東市内のバリアフリーマップを整備する民間団体と地元大学の産・学・官が連携し、大学の講義の一環としてデータのメンテナンスを定期的に行う仕組みを検討。学生の「心のバリアフリー」の教育にもつなげる。

(参考) 北河内ユニバーサルマップの取り組み



J R 住道駅版、J R 野崎駅版、JR四條畷駅版

J R 住道駅版マップ

「北河内ユニバーサルマップ」を平成28・29年度は大東市提案公募型委託事業、平成30年度は四條畷市地域福祉基金助成事業にて「介助犬のひろば実行委員会」が制作・配布。地域の大学生等に参加いただき、店舗に訪問し、段差の有無、スロープの有無、手話対応の可否など、バリアフリー化されている情報を収集しマップを作成。

種別	番号	位置	店舗名	種別	駐車場	段差なし	スロープあり	入館90分以上	聴覚大	手話・筆談対応	外国語対応	視覚大	音声案内	手すり付	車いす用	ベビーカー	オムツ交換台	哺乳瓶洗浄機	授乳スペース	給湯機・流し台	ATM	留守時	休憩
公共施設・複合商業施設	1	B4	アルビ佳道	集合施設																			
	2	B2	ポップタウンオペラパーク	集合施設																			
	3	D1	市民会館	公共施設																			
	4	C4	大東サンメイツ二番館	集合施設																			
	5	B4	大東サンメイツ一番館	集合施設																			
	6	B4	生涯学習センター	公共施設																			
	7	C4	文化情報センター(1F)	公共施設																			
	8	C5	末広公園	公共施設																			
	9	D5	総合福祉センター	公共施設																			
	10	D5	総合文化センター	公共施設																			

各店舗ごとのバリアフリー情報